

手指外傷



1. 疫学

ドアや機械などにはさまれたりする事故は全年齢層中0-4歳で最も多く、居住場所が約3割以上で、次いで公共施設等や道路・交通施設の順に発生している¹⁾。指外傷の約5%が切断に至っていたとの報告もあり重症度によっては機能的予後に関わる可能性がある外傷である。さらに指や爪の変形による機能の問題に加えて、ボディイメージの問題により本人および保護者らが長期にわたり精神的な苦痛を感じることもある。

0-4歳
最多



2. 病態

5歳未満の中指特に末節骨の外傷が多く爪外傷を合併しており指の切断まで至った例も少なからず存在する。屋内での受傷が多く特に乳幼児は屋内ドアが原因であることが多く、保護者がそばにいる環境下でも発生する。ドアが閉められた際にドアの蝶番部分で受傷しやすいなどの特徴がある²⁾。



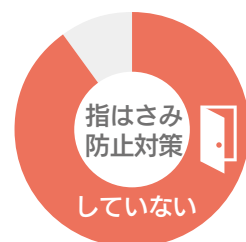
特に乳幼児は
屋内ドアが原因
であることが多い

3. 応急処置

挫創、骨折、切断などの創部に応じて外科系医師と縫合や骨折固定、手術など検討。

4. 予防・啓発

- 自宅にあるドアの種類は開き戸が多く、指はさみ防止対策をしていない場合が約9割を占めている現状がある³⁾。
- 指はさみ防止グッズは必要に応じて複数個使用することが望まれ、子どもの手の届く高さを考慮する必要がある。指はさみ防止グッズの例として、はさマンモス[®]、フィンガーアラート[®]、カーボーイドアストッパー[®]などがある。
- 東京都住宅政策本部より「子育てに配慮した住宅のガイドライン」が出されており、玄関ドア、室内戸ヘドアストッパーや指はさみ防止カバーの取り付けが推奨されており参考にする⁴⁾。
- 刃物、大きな力が作用する工具や機械を使用する際には、子どもを近くに寄せないようにする。



指はさみ防止対策を
していない
約9割

参考文献 1) 救急搬送データからみる日常生活事故の実態令和元年 東京消防庁 防災部防災安全課
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/nichijou/kkhdata/data/all.pdf>
2) Yorlets RR, et al. Hand (N Y) 2017 Jul;12(4):342-347.PMID: 28644934
3) 平成 28 年度調査ドアの安全性に関する調査報告書東京都生活文化局消費生活部 平成 29 年 3 月
https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/test/documents/door_houkokusho.pdf
4) 子育てに配慮した住宅のガイドライン第2編II 建物を整備する際の配慮事項 1 住戸内
https://www.juutakuseisaku.metro.tokyo.lg.jp/juutaku_seisaku/pdf/child-care-guide_04.pdf